

水稻生産者の皆様へ

令和5年産水稻栽培 比較的品质・収量が良かった事例

令和5年6月～9月の高温・干ばつにより、県内全域で水稻の品質・収量に影響が出ました。

その中で、地域の平均に比べて作柄が良かった事例を紹介します。栽培の参考にしてください。

彩のかがやき p. 1～6

彩のきずな p. 7～9

コシヒカリ p. 10～16

令和6年3月

埼玉県農林部

品種名：彩のかがやき 作型： 早期 ・ 早植 ・ **普通期**
 栽培場所：鴻巣市 当該事例の検査等級： **1等** ・ 2等
 地域の標準的な検査等級：規格外 ※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：6月3日頃、出穂期：8月20日頃、収穫日：10月10日頃

○施肥量について

一発型肥料 スーパーらくだ君 (90日タイプ)：48kg/10a

N成分：12kg/10a、施用時期：6月3日頃

穂肥① 商品名：NK-C6 18kg/10a、N成分3kg/10a

施用時期：7月30日頃※一発型肥料使用の場合でも穂肥を施用した場合は記載

総施肥量：65kg/10a、N成分15kg/10a

○土づくりについて

- ・土壌改良剤 ケイカル 140 kg/10 a
- ・作土深 15 cm程度

○用水について (複数回答可)

- ・用水の種類： **河川** ・ ため池からの用水 ・ 地下水
- ・出穂期後、収穫期直前までの水管理： **間断** ・ 湛水 ・ その他
- ・用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況 (並：○、不足 気味：△、不足：×)	○	○	○	○

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象)	濃	濃	濃	濃	濃

○病虫害防除

- ・田植時の育苗箱施用： **無** ・ 有
- ・共同防除 (空散等)： **有**、施用時期7月25日)
- ・共同防除以外の栽培期間中の病虫害防除： **無** ・ 有

○斑点米カメムシ類の発生状況について

- ・ほ場での発生状況 中程度 ・黒点米の発生状況 中程度

○収量について

530kg/10a (平年比： 多 ・ **並** ・ 少)

○色彩選別機利用の有無 (**有** ・ 無)

○良かったと思われる取組内容

- ・土づくりを継続し耕うん回数を少なくしている。
- ・植え付け株数50/坪とし密植にならないようしている。

○農業者のコメント 同上

○担当普及指導員のコメント

ケイ酸、稲わら全量すき込みによる土づくりの効果が発揮された。

品種名：彩のかがやき 作型： 早期 ・ 早植 ・ 普通期

栽培場所：鴻巣市 当該事例の検査等級： 1等 ・ 2等

地域の標準的な検査等級：規格外 ※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：6月26日頃、出穂期：8月25日頃、収穫日：10月14日頃

○施肥量について

基肥 商品名：マイルド有機 15kg/10a、N成分：1.5kg/10a 施用時期：5月27日頃

穂肥① 商品名：NK-530 13kg/10a、N成分2kg/10a 施用時期：7月30日頃

総施肥量：28kg/10a、N成分3.5kg/10a

○土づくりについて

・土壌改良剤 農力アップ 60kg/10a、緑肥(レンゲ)すき込み 1t/10a程度、シリカ 21 20kg/10a

・作土深 15 cm程度

○用水について（複数回答可）

・用水の種類： 河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水

・出穂期後、収穫期直前までの水管理： 間断 ・ 湛水 ・ その他

・用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況（並：○、不足 気味：△、不足：×）	○	○	○	○

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象	中	中	中	中	中

○病虫害防除

・田植時の育苗箱施用： 無 ・ 有

・共同防除（空散等）： 無 有

・共同防除以外の栽培期間中の病虫害防除： 無 ・ 有

○斑点米カメムシ類の発生状況について

・ほ場での発生状況 中程度 ・黒点米の発生状況 中程度

○収量について

420kg/10a（平年比： 多 ・ 並 ・ 少）

○色彩選別機利用の有無（ 有 ・ 無）

○良かったと思われる取組内容

・「こうのとりの伝説米」に取り組み7年前から土づくりを継続している。

・高温であったため例年より早く刈り取りを実施した。

○農業者のコメント 同上

○担当普及指導員のコメント

適期に収穫できたこと、ケイ酸等土づくりの効果が発揮された。

品種名：彩のかがやき 作型： 早期 ・ 早植 ・ 普通期

栽培場所：川越市 当該事例の検査等級： 1等 ・ 2等

地域の標準的な検査等級： 3等 ※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：7月4日頃、収穫日：10月20日頃

○施肥量について

一発型肥料（60日タイプ）：水稲一発 200kg/10a、N成分：8kg/10a、施用時期：7月2日頃
総施肥量：40kg/10a、N成分 8kg/10a

○土づくりについて

- ・稲わら 400 kg/10 a ※参考：一般的に、子実収量とわら重は概ね同量です。
- ・作土深 16 cm程度（スタブルカルチ使用）

○用水について（複数回答可）

- ・用水の種類： 河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水
- ・出穂期後、収穫期直前までの水管理： 間断 ・ 湛水 ・ その他
- ・用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況（並：○、不足 気味：△、不足：×）	○	○	○	○

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象	中	中	中	中	中

- ・中干し時から出穂期の葉色（平年比）： 濃 ・ 中 ・ 淡

○病虫害防除

- ・田植時の育苗箱施用： 無 ・ 有 ・ 共同防除（空散等）： 無 ・ 有
- ・共同防除以外の栽培期間中の病虫害防除： 無 ・ 有

○斑点米カメムシ類の発生状況について

- ・ほ場での発生状況 発生は確認している

○収量について 420kg/10a（平年比： 多 ・ 並 ・ 少）

○色彩選別機利用の有無（ 有 ・ 無 ）

○良かったと思われる取組内容

- ・田植えが遅いこと ・夕方～夜間にかけて水を入れていたこと
- ・水田の水持ちが良い

○農業者のコメント

田植えが遅かったことが品質がよかった一番の原因と考える。毎年、今年と同じような栽培を行っているが、かがやきはだいたい毎年1等である。今年に限って何か特別なことをしたわけではない。

○担当普及指導員のコメント

トマト栽培も行っているため、どうしても水稲栽培が開始できるのが6月に入ってからになってしまう。6月から彩のきずな、コシヒカリ、彩のかがやきの栽培となるため、かがやきの田植えは毎年7月になってからになる。田植えが遅いこと、夜間に冷たい地下水を入れていることで高温障害が防げたと考える。

品種名：彩のかがやき 作型： 早期 ・ 早植 ・ 普通期

栽培場所：嵐山町 当該事例の検査等級： 1等 ・ 2等

地域の標準的な検査等級： 2等～3等 ※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：6月27日頃、出穂期：8月25日、収穫日：10月11日頃

○施肥量について

基肥：マイルド有機030 60kg/10a、N成分：6kg/10a、施用時期：6月20日頃

総施肥量：60kg/10a、N成分6kg/10a

○土づくりについて

・稲わら 400 kg/10a ・作土深 10～12 cm程度

○用水について（複数回答可）

・用水の種類： 河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水

・出穂期後、収穫期直前までの水管理： 間断 ・ 湛水 ・ その他

・用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況（並：○、不足 気味：△、不足：×）	○	○	×	×

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象	中	中	中	中	中

○病虫害防除

・田植時の育苗箱施用： 無 ・ 有 ・ 共同防除（空散等）： 無 ・ 有

・共同防除以外の栽培期間中の病虫害防除： 無 ・ 有

○斑点米カメムシ類の発生状況について

・ほ場での発生状況 目立たず ・黒点米の発生状況 目立たず

○収量について 378kg/10a（平年比： 多 ・ 並 ・ 少）

○色彩選別機利用の有無（ 有 ・ 無 ）

○良かったと思われる取組内容

- ・節水に努めた。
- ・水田の様子を見て中干しを実施した。

○農業者のコメント

例年中干しを行っているが、水不足が予想されたので、中干しを行わなかった
田植えは、6月中旬から7月中旬に行った。

○担当普及指導員のコメント

多収より売れる品質を重視した栽培につとめている。

品種名：彩のかがやき 作型： 早期 ・ 早植 ・ 普通期

栽培場所：美里町 当該事例の検査等級： 1等 ・ 2等

地域の標準的な検査等級：2等～3等 ※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：6月29日頃、出穂期：8月25日頃、収穫日：10月16日頃

○施肥量について

基肥：化成肥料 14-14-14 55kg/10a、N成分：7.7kg/10a 施用時期：6月23日頃

総施肥量：55kg/10a、N成分 7.7kg/10a

○土づくりについて

- ・ 麦わら 450 kg/10a ※参考：一般的に、子実収量とわら重は概ね同量です。
- ・ 堆きゆう肥 牛ふん堆肥・豚ふん堆肥・鶏ふん堆肥 2t/10a (3年に1回)
- ・ 土壌改良剤 ケイカル 50 kg/10a ・ 作土深 18 cm程度

○用水について (複数回答可)

- ・ 用水の種類： 河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水
- ・ 出穂期後、収穫期直前までの水管理： 間断 ・ 湛水 ・ その他
- ・ 用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況 (並：○、不足 気味：△、不足：×)	○	○	○	○

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象)	5.0	5.0	4.8	-	4.5

- ・ 中干し時から出穂期の葉色 (平年比)： 濃 ・ 中 ・ 淡

○病虫害防除

- ・ 田植時の育苗箱施用： 無 ・ 有
- ・ 共同防除 (空散等)： 無 ・ 有
- ・ 共同防除以外の栽培期間中の病虫害防除： 無 ・ 有 施用時期 8月26日

○斑点米カメムシ類の発生状況について

- ・ ほ場での発生状況 なし
- ・ 黒点米の発生状況 なし

○収量について 618kg/10a (平年比： 多 ・ 並 ・ 少)

○色彩選別機利用の有無 (有 ・ 無)

○良かったと思われる取組内容

- ・ 小麦後の6月末の田植えであり、田植え時期が遅く、出穂期以降の高温に遭遇した期間が短い。
- ・ 牛ふん堆肥や土壌改良剤を施用しており、土づくりができています。
- ・ 作土深が確保されており、根域が広い。

○農業者のコメント

土づくりを行っており、小麦後の彩のかがやきでは出穂期が遅いため、高温が登熟に良い影響を及ぼしたと思われる。

○担当普及指導員のコメント

土づくりをしっかり行っていることから、体力のある草姿である。
管内でも6月10日前の田植えでは2～3等の品質が多いが、規格外は発生していない。

品種名：彩のかがやき

作型：麦あと普通植え

栽培場所：熊谷市

当該事例の検査等級：1等

地域の標準的な検査等級：1等～3等（2等の割合が多い）※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：7月1日～5日頃、出穂期：9月1日頃、収穫日：10月16日頃

○施肥量について

基肥：化成肥料 14-14-14 60kg/10a、N成分：8.4kg/10a、施用時期：6月28日頃

総施肥量：60kg/10a、N成分 8.4kg/10a

○土づくりについて

- ・稲わら・麦わら 麦わらは、排出または麦ロール ※参考：一般的に、子実収量とわら重は概ね同量です。
- ・堆きゅう肥 牛ふん堆肥または豚ふん堆肥 2t/10a（毎年ではない）
- ・作土深 15～20cm程度

○用水について（複数回答可）

- ・用水の種類：河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水
- ・出穂期後、収穫期直前までの水管理：間断 ・ 湛水 ・ その他
- ・用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況（並：○、不足 気味：△、不足：×）	○	△	○	○

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象		淡くはな かった	淡くはな かった		中

- ・中干し時から出穂期の葉色（平年比）：濃 ・ 中 ・ 淡

○病虫害防除

- ・田植時の育苗箱施用：無 ・ 有 ・ 共同防除（空散等）：無 ・ 有
- ・共同防除以外の栽培期間中の病虫害防除：無 ・ 有、施用時期8月10日頃
（地域の共同防除（空散）と同一日に無人ヘリ散布）

○斑点米カメムシ類の発生状況について

- ・ほ場での発生状況 無 ・ 黒点米の発生状況 無

○収量について 420kg/10a（平年比：並）

○色彩選別機利用の有無 有

○良かったと思われる取組内容

- ・移植日が遅い（出穂期が8月下旬以降） ・ たい肥の施用
- ・プラウによる深耕 ・ 色彩選別機の使用

○農業者のコメント

彩のかがやきの移植日は6月下旬以降の方が品質は良い

○担当普及指導員のコメント

たい肥による土づくりや深耕で根張りを良くしたうえに、出穂期が遅い6月下旬以降の移植が功を奏した。さらに色彩選別機を使用したことで高品質を維持できた。

品種名：彩のきずな 作型： 早期 ・ 早植 ・ 普通期

栽培場所：坂戸市 当該事例の検査等級： 1等 ・ 2等

地域の標準的な検査等級：1等 ※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：5月28日頃、出穂期：8月6日頃、収穫日：9月13日頃

○施肥量について

一発型肥料 彩のきずないるま野専用一発（80日タイプ）：40kg/10a

N成分：9.6kg/10a、速効性10.4%、60日5.6%、80日8.0%、 施用時期 5月25日頃

総施肥量：40kg/10a、N成分：9.6kg/10a

○土づくりについて

・稲わら 500 kg/10a ※参考：一般的に、子実収量とわら重は概ね同量です。

・土壌改良剤：稲サポ 75 kg/10a ・作土深 10 cm程度

○用水について（複数回答可）

- ・用水の種類： 河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水
- ・出穂期後、収穫期直前までの水管理： 間断 ・ 湛水 ・ その他
- ・用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況（並：○、不足 気味：△、不足：×）	○	○	○	○

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象	5.0	4.5	4.5	4.0	?

・中干し時から出穂期の葉色（平年比）： 濃 ・ 中 ・ 淡

○病虫害防除

・田植時の育苗箱施用： 無 ・ 有 ・ 共同防除（空散等）： 無 ・ 有、施用時期：8月8日

○斑点米カメムシ類の発生状況について：ドローンによる防除実施（2020年～）

・ほ場での発生状況：0% ・黒点米の発生状況：0%

○収量について 600kg/10a（平年比： 多 ・ 並 ・ 少）

○色彩選別機利用の有無（ 有 ・ 無） JAカントリーエレベーター出荷

○良かったと思われる取組内容

- ・基盤整備済みで豊富な水を確保し、水回りくん(セスイ)の活用
- ・ドローンによる殺虫剤、除草剤(後期剤)の処理

○農業者のコメント

長年水稻整備に投資した成果が出た。特に、ドローンを活用しカメムシ防除することでカメムシによる被害を抑えられている。

○担当普及指導員のコメント

豊富な水を確保できたことで出穂期前後にかけ流しかん水を行うことができた。そのため、収量・品質ともに良い結果になったと考えられる。

品種名：彩のきずな 作型： 早期 ・ 早植 ・ 普通期

栽培場所：吉見町 当該事例の検査等級： 1等 ・ 2等

地域の標準的な検査等級：1等～2等 ※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：5月25日頃、出穂期：8月3日、収穫日：9月10日頃

○施肥量について

一発型肥料：彩一発 60kg/10a、N成分：6.6kg/10a、施用時期：5月22日頃

総施肥量：60kg/10a、N成分 6.6kg/10a

○土づくりについて

- ・ 稲わら 450 kg/10a ※参考：一般的に、子実収量とわら重は概ね同量です。
- ・ 土壌改良剤 農力アップ 60kg ・ 作土深 18 cm程度

○用水について（複数回答可）

- ・ 用水の種類： 河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水
- ・ 出穂期後、収穫期直前までの水管理： 間断 ・ 湛水 ・ その他
- ・ 用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況（並：○、不足 気味：△、不足：×）	○	○	○	○

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象	中	中	中	中	中

○病虫害防除

- ・ 田植時の育苗箱施用： 無 ・ 有 ・ 共同防除（空散等）： 無 ・ 有
- ・ 共同防除以外の栽培期間中の病虫害防除： 無 ・ 有

○斑点米カメムシ類の発生状況について

- ・ ほ場での発生状況 少 ・ 黒点米の発生状況 少

○収量について 510kg/10a（平年比： 多 ・ 並 ・ 少）

○色彩選別機利用の有無（ 有 ・ 無 ）

○良かったと思われる取組内容

- ・ 深耕 ・ レーザーレベラによる均平化 ・ 収穫間際までの間断灌水
- ・ 土壌改良剤の投入（農力アップ）

○農業者のコメント

一発肥料でも後追い追肥の実施を検討したが、暑さでできなかった。

○担当普及指導員のコメント

水稻が生育しやすい条件を作り、生育状況に応じた管理をしている。

品種名：彩のきずな 作型： 早期 ・ 早植 ・ 普通期

栽培場所：秩父市 当該事例の検査等級： 1等 ・ 2等

地域の標準的な検査等級：1等～2等 ※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：5月24日頃、出穂期：8月4日頃、収穫日：9月16日頃

○施肥量について

基肥：BM 燐加安 50kg/10a N成分：6kg/10a 施用時期：5月10日頃

穂肥①：NK化成 7～8kg/10a、N成分 1.4kg/10a

施用時期：7月16日頃※一発型肥料使用の場合でも穂肥を施用した場合は記載

総施肥量：57kg/10a、N成分 7.4kg/10a

○土づくりについて

・稲わら・麦わら 500 kg/10a ※参考：一般的に、子実収量とわら重は概ね同量です。

・作土深 10 cm程度

○用水について（複数回答可）

・用水の種類： 河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水

・出穂期後、収穫期直前までの水管理： 間断 ・ 湛水 ・ その他

・用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況（並：○、不足 気味：△、不足：×）	○	○	○	○

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象	淡	濃	中	—	中

○病虫害防除

・田植時の育苗箱施用： 無 ・ 有

・共同防除（空散等）： 無 ・ 有 施用時期：7月6日、8月16日

○斑点米カメムシ類の発生状況について

・ほ場での発生状況 少 ・ 黒点米の発生状況 無

○収量について 608 kg/10a（平年比： 多 ・ 並 ・ 少）

○色彩選別機利用の有無（有 ・ 無）

○良かったと思われる取組内容

・適期に中干しに入り、無効分けつが少なかったこと。

・収穫期間近まで間断かん水ができたこと。

○農業者のコメント

大変厳しい夏だったが、収量が確保されたことは良かった。

○担当普及指導員のコメント

白未熟粒はさほど多くないが発生している。等級は1～2等相当。

品種名：コシヒカリ 作型： 早期 ・ 早植 ・ 普通期

栽培場所：さいたま市 当該事例の検査等級： 1等 ・ 2等

地域の標準的な検査等級：2等～3等 ※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：4月28日頃、出穂期：7月25日頃、収穫日：9月1日頃

○施肥量について

基肥：有機アグレット 655 70kg/10a、発酵ケイフン 45kg/10a

N成分：5.55kg/10a、施用時期：3月29日頃

穂肥①：化成 17-0-17 5kg/10a、N成分 0.85 kg/10a

施用時期：7月2日頃※一発型肥料使用の場合でも穂肥を施用した場合は記載

総施肥量：120kg/10a、N成分 6.4kg/10a

○土づくりについて

・稲わら 400 kg/10a ※参考：一般的に、子実収量とわら重は概ね同量です。

・作土深 20 cm程度

○用水について（複数回答可）

・用水の種類： 河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水

・出穂期後、収穫期直前までの水管理： 間断 ・ 湛水 ・ その他

・用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況（並：○、不足 気味：△、不足：×）	○	×	△	×

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象	中	淡	中	—	淡

・中干し時から出穂期の葉色（平年比）： 濃 ・ 中 ・ 淡

○病虫害防除

・田植時の育苗箱施用： 無 ・ 有 ・ 共同防除（空散等）： 無 ・ 有

・共同防除以外の栽培期間中の病虫害防除： 無 ・ 有

○斑点米カメムシ類の発生状況について

・ほ場での発生状況 少 ・ 黒点米の発生状況 少

○収量について 390kg/10a（平年比：多 ・ 並 ・ 少）

○色彩選別機利用の有無（ 有 ・ 無）

○良かったと思われる取組内容

- ・作土深が20cm程度と深い。
- ・篩選が1.85mmで地域の一般的な1.8mmより大きい。

○農業者のコメント

刈り取りだけは早い方が良い。青が残っている内に刈る。

○担当普及指導員のコメント

作土深が深いこと、早めの刈り取り、篩目が大きいこと、色選の利用が効果的だったと考えられる。

品種名：コシヒカリ

作型： 早期 ・ 早植 ・ 普通期

栽培場所：川越市

当該事例の検査等級： 1等 ・ 2等

地域の標準的な検査等級：2等～3等 ※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：5月27日頃、出穂期：8月6日頃、収穫日：9月7日頃

○施肥量について

基肥 極ブレンド 38 kg/10a、N成分：1.9kg/10a、施用時期：5月12日頃

コシヒカリ 5-5-5 (5-15-15) 35 kg/10a、N成分：1.75kg/10a、施用時期：5/27 (田植時側条施肥)

中間肥① 化成肥料 17-0-17 3kg/10a、N成分：0.51kg/10a、施用時期：7月2日頃

中間肥② けい酸加里 30kg/10a、N成分：0kg/10a、施用時期：7月6日頃

穂肥① 有機アグレット 673 9kg/10a、N成分 0.54kg/10a、施用時期：7月13日頃

穂肥② 過石 5kg/10a、N成分 0kg/10a、施用時期：7月26日頃

総施肥量：80kg/10a、N成分 4.7kg/10a

○土づくりについて

・ 稲わら 500 kg/10 a ※参考：一般的に、子実収量とわら重は概ね同量です。

・ 腐葉土 (購入) +糠 (75 kg入り程度) 1.2 t /10a ・ 土壌改良剤 ケイカル 120 kg/10 a ・ 作土深 12 cm程度

○用水について (複数回答可)

・ 用水の種類： 河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水

・ 出穂期後、収穫期直前までの水管理： 間断 ・ 湛水 ・ その他

・ 用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況 (並：○、不足 気味：△、不足：×)	○	○	○	○

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂肥 判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象)	薄め	ちよい薄め	濃いめ	濃いめ	濃いめ

・ 中干し時から出穂期の葉色 (平年比)： 濃 ・ 中 ・ 淡

○病虫害防除

・ 田植時の育苗箱施用： 無 ・ 有 ・ 共同防除 (空散等)： 無 ・ 有

・ 共同防除以外の栽培期間中の病虫害防除： 無 ・ 有 施用時期 8月4日

○斑点米カメムシ類の発生状況について

・ ほ場での発生状況 多少は確認あり ・ 黒点米の発生状況 ほぼ無い (昔から線虫被害圃場)

○収量について 492kg/10a (平年比： 多 ・ 並 ・ 少) ○色彩選別機利用の有無 (有 ・ 無)

○農業者のコメント

平年収量 444kg/10a と比べて約一割増であった。除草剤の効果確認後にガス害回避のため間断灌水にて根張り助長させた。また6月高温予想から中間追肥と穂肥でリン酸+カルシウム補給のため過石を使用した。これらが生理的に働き、平年より茎の太い稲体作りが良かったのではないかと感じている。

○担当普及指導員のコメント

有機質資材を使用し、さらに適宜追肥を行うことで、高温下でも肥切れを起こすことがなかったことが高品質の要因の1つであると考え。また、この地域では、比較的冷たい水が十分な量、常に水路にあったように感じる。十分な肥料と冷たい水で、高温下でも稲体が弱らなかったことが高温障害を軽減できた要因だと考えられる。

品種名：コシヒカリ 作型： 早期 ・ 早植 ・ 普通期

栽培場所：吉見町 当該事例の検査等級： 1等 ・ 2等

地域の標準的な検査等級：1等～3等 ※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：5月17日頃、出穂期：7月31日、収穫日：9月7日頃

○施肥量について

基肥：有機アグレット 673 60kg/10a、N成分：3.6kg/10a、施用時期：5月11日頃

穂肥①：NK化成 17-0-17 8kg/10a、N成分1.4kg/10a、施用時期：7月19日頃

総施肥量：68kg/10a、N成分5kg/10a

○土づくりについて

・稲わら 480 kg/10a ※参考：一般的に、子実収量とわら重は概ね同量です。

・土壌改良剤 農力アップ 60kg/10a ・作土深 18 cm程度

○用水について（複数回答可）

・用水の種類： 河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水

・出穂期後、収穫期直前までの水管理： 間断 ・ 湛水 ・ その他

・用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況（並：○、不足 気味：△、不足：×）	○	○	○	○

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象	中	中	中	中	中

○病虫害防除

・田植時の育苗箱施用： 無 ・ 有 ・ 共同防除（空散等）： 無 ・ 有

・共同防除以外の栽培期間中の病虫害防除： 無 ・ 有

○斑点米カメムシ類の発生状況について

・ほ場での発生状況 多くない ・ 黒点米の発生状況 センチュウ害少々有り

○収量について 540kg/10a（平年比： 多 ・ 並 ・ 少）

○色彩選別機利用の有無（ 有 ・ 無）

○良かったと思われる取組内容

・深耕 ・ レーザーレベラによる均平化 ・ 収穫間際までの間断灌水

・土壌改良剤の投入（農力アップ）

・施肥管理（一発肥料と有機肥料を使い分けた。）

○農業者のコメント

収穫間際まで落水しない。少雨のため、意識して収穫前まで間断灌水（例年よりも直前まで実施）。

○担当普及指導員のコメント

水稻が生育しやすい条件を作り、生育状況に基づいた管理をしている。

品種名：コシヒカリ 作型： 早期 ・ 早植 ・ 普通期
 栽培場所：行田市 当該事例の検査等級： 1等 ・ 2等

○作業時期等について

移植日：6月5日頃、出穂期：8月11日頃、収穫日：9月14日頃

○施肥量について

基肥：バイオノ有機S 60kg/10a、N成分：4.3kg/10a、施用時期：6月1日頃

穂肥①：バイオノ有機S 20kg/10a、N成分：1.4kg/10a

施用時期：8月1日頃 ※一発型肥料使用の場合でも穂肥を施用した場合は記載

総施肥量：80kg/10a、N成分5.7kg/10a

○土づくりについて

・堆きゅう肥 牛ふん堆肥・豚ふん堆肥・鶏ふん堆肥 1 t /10a

○用水について（複数回答可）

- ・用水の種類： 河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水
- ・出穂期後、収穫期直前までの水管理： 間断 ・ 湛水 ・ その他
- ・用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況（並：○、不足 気味：△、不足：×）	○	○	○	○

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象	並	並	並	-	並

・中干し時から出穂期の葉色（平年比）： 濃 ・ 中 ・ 淡

○病虫害防除

- ・田植時の育苗箱施用： 無 ・ 有
- ・共同防除（空散等）： 無 ・ 有
- ・共同防除以外の栽培期間中の病虫害防除： 無 ・ 有

○斑点米カメムシ類の発生状況について

・ほ場での発生状況 あり ・ 黒点米の発生状況 部分着色粒0.2%

○収量について 440kg/10a（平年比： 多 ・ 並 ・ 少）

○色彩選別機利用の有無（ 有 ・ 無）

○良かったと思われる取組内容

- ・中干しのタイミングが良く、茎数を株あたり20本程度にできたこと。
- ・穂肥をタイミング良く施用でき、収穫適期を逃さず収穫できたこと。

○農業者のコメント

移植・中干し・穂肥・収穫と適期にできたことが良かったと思う。

○担当普及指導員のコメント

晩植のため出穂期の高温を多少回避できた。また、緩効性である有機肥料の穂肥を適期に施用できたことが品質安定につながったと思われる。

品種名：コシヒカリ 作型： 早期 ・ 早植 ・ 普通期
 栽培場所：幸手市 当該事例の検査等級： 1等 ・ 2等
 地域の標準的な検査等級：2等～3等 ※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：4月20日頃、出穂期：7月20日頃、収穫日：8月20日頃

○施肥量について

基肥：こしひかり専用 005 20kg/10a、N成分：2kg/10a、施用時期：4月10日頃
 穂肥①：穂肥エース 20kg/10a、N成分 2.2kg/10a、施用時期：7月18日頃
 総施肥量：40kg/10a、N成分 4.2kg/10a

○土づくりについて

- ・稲わら・麦わら 500 kg/10a ※参考：一般的に、子実収量とわら重は概ね同量です。
- ・堆きゅう肥 牛ふん堆肥・豚ふん堆肥・鶏ふん堆肥 発酵鶏糞 0.05 t /10a
- ・土壌改良剤 BMようりん 20 kg/10a ・作土深 18～20 cm程度

○用水について（複数回答可）

- ・用水の種類： 河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水
- ・出穂期後、収穫期直前までの水管理： 間断 ・ 湛水 ・ その他
- ・用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況（並：○、不足 気味：△、不足：×）	○	○	○	△

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象	中	中	中	-	中

○病虫害防除

- ・田植時の育苗箱施用： 無 ・ 有
- ・共同防除（空散等）： 無 ・ 有
- ・共同防除以外の栽培期間中の病虫害防除： 無 ・ 有

○斑点米カメムシ類の発生状況について

- ・ほ場での発生状況 少 ・ 黒点米の発生状況 少

○収量について 490kg/10a（平年比：多 ・ 並 ・ 少）

○色彩選別機利用の有無（ 有 ・ 無）

○良かったと思われる取組内容

- ・土づくり ・ 深耕 ・ 温湯消毒 ・ 苗作り ・ 追肥

○農業者のコメント

健苗（温湯消毒）と深耕で健全な稲体をつくった。
 稲をよく見て後半にきめ細かい水管理を行い、高温対策をした。

○担当普及指導員のコメント

苗づくりと有機物を利用した土づくりで健全な稲づくりをしている。

品種名：コシヒカリ

作型： 早期 ・ 早植 ・ 普通期

栽培場所：吉川市

当該事例の検査等級： 1等 ・ 2等

地域の標準的な検査等級：2等～3等 ※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：4月29日頃、出穂期：7月21日頃、収穫日：8月27日頃

○施肥量について

一発型肥料 エコレット 257 (100日タイプ) : 35kg/10a、N成分 : 7kg/10a、総施肥量 : 35kg/10a、N成分 7kg/10a

○土づくりについて

- ・ 稲わら 500 kg/10a ※参考：一般的に、子実収量とわら重は概ね同量です。
- ・ 作土深 15 cm程度

○用水について（複数回答可）

- ・ 用水の種類： 河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水
- ・ 出穂期後、収穫期直前までの水管理： 間断 ・ 湛水 ・ その他
- ・ 用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況（並：○、不足 気味：△、不足：×）	○	○	○	○

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象	すべての時期で周辺の田より葉色が濃い				

- ・ 中干し時から出穂期の葉色（平年比）： 濃 ・ 中 ・ 淡

○病虫害防除

- ・ 田植時の育苗箱施用： 無 ・ 有 ・ 共同防除（空散等）： 無 ・ 有
- ・ 共同防除以外の栽培期間中の病虫害防除： 無 ・ 有

○斑点米カメムシ類の発生状況について

- ・ ほ場での発生状況
- ・ 黒点米の発生状況 当該作期は4/29～6/23の作期の中では少ない

○収量について 509kg/10a（平年比： 多 ・ 並 ・ 少）

○色彩選別機利用の有無（ 有 ・ 無 ）

○良かったと思われる取組内容

- ・ 用水が早くから潤沢に流れている地区
- ・ 田植時期が早い ・ 色彩選別機の活用
- ・ 高温傾向にあるためN成分を昔より多めにしている

○農業者のコメント

用水が潤沢に使える場所で、田植期が一番早い時期の製品

○担当普及指導員のコメント

耕深を確保し、毎年わらと還元する土づくりを実施している。

品種名：コシヒカリ 作型： 早期 ・ 早植 ・ 普通期

栽培場所：－ 当該事例の検査等級： 1等 ・ 2等

地域の標準的な検査等級：2等～3等 ※同一品種で概ね同時期に移植したもの

○作業時期等について

移植日：4月20日頃、出穂期：7月14日頃、収穫日：8月14日頃

○施肥量について

基肥 軽量キング 30kg/10a、N成分：6kg/10a、施用時期：4月20日頃

穂肥① 化成肥料オール 14、10kg/10a、N成分 1.4kg/10a、施用時期：7月2日頃

総施肥量：31.4kg/10a、N成分 7.4kg/10a

○土づくりについて

・作土深 13 cm程度

○用水について（複数回答可）

・用水の種類： 河川 ・ ため池からの用水 ・ 地下水

・出穂期後、収穫期直前までの水管理： 間断 ・ 湛水 ・ その他

・用水の不足状況について

時期	田植～中干	～穂ばらみ	出穂前後1週間	～出穂30日後
状況（並：○、不足 気味：△、不足：×）	○	○	○	○

○葉色について

時期	田植～ 中干し前	中干し期	1回目穂 肥判断時	2回目穂 肥判断時	～収穫期
葉色板の数値、又は 感覚的な葉色の印象			3（単葉）		

・中干し時から出穂期の葉色（平年比）： 濃 ・ 中 ・ 淡

○病虫害防除

・田植時の育苗箱施用： 無 ・ 有 ・ 共同防除（空散等）： 無 ・ 有（施用時期：7月22日）

○斑点米カメムシ類の発生状況について

・ほ場での発生状況：アカヒゲホソミドリカスミカメ発生数少。 イネカメムシ発生無し。

・黒点米の発生状況：昨年と同様。被害は大きくない。

○収量について 570 kg/10a（平年比： 多 ・ 並 ・ 少）

○色彩選別機利用の有無（ 有 ・ 無 ）

○良かったと思われる取組内容

・適切な穂肥の実施 ・ 共同防除（斑点米カメムシ類）の実施

・高温により出穂が早まり、不稔を発生させるような異常高温期間（7月下旬～8月上旬）の開花を避けられた。

○農業者のコメント

コシヒカリでも肥料を施用しないと収量は取れないと考えている。ただ、今作の収量はとれたが、くず米の発生が多かった。

○担当普及指導員のコメント

生産者と随時情報交換を行い、高温・病虫害対策を講じた結果、例年並みの収量となった。